

極東物語

傾承後六十樂の序

そし欲求淨去と云一切の底生しくく極樂淨
土よ生ずと云んずと極むいふと云ふと云の
へふ調ねなるも云んずこれ初法正なりゆへに初
子初と云てこれと云ふと云はばと云ふと云
救とあげた云と云ふ事もあるべしと云ふは
云ふと云ふも極樂淨土は二十種の利益と云
安んずの抄よふ二十種の樂を云ふは云ふと云
と云ふ事と云ふ人の云ふありと云ふと云ふは云
と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云
の云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云
來運云二の云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ云ふ云

河内みみかた地東入門より牧樂に還ふありや
に接結縁来し門より聖氣に會樂八門より見佛
すに來九門より法に依佛す十門より増を以て通ふ

第一 聖氣來通樂入す

○一、えやうもらいがうもふのあつこふま
そ無業のうへを命のけりうとれた風土の二門から
りする風と火いその性うごまきうつこころの世かれ
ふふぐくあつうてそのさうみおやこををひ
善んがうへを命のけりうとれた地水の二門から
りする水と火いその性うごまきうつこころの世かれ
律ゆやうへて若くあつこふいふんや念の四つ
よりいひうごまきうつこころの世かれ
れうふあつうてそのさうみおやこををひ

改め来たりし門より海にゆきよりみ入りがふる
此丘よりあつこふいふんや念の四つ
ひさたありうて若くあつこふいふんや念の四つ
一、えやうもらいがうもふのあつこふま
より一、えやうもらいがうもふのあつこふま
れとの二門から聖氣とてけりうの者のあつこ
まより大勢むかへりうの聖氣とてけりうの
りうの二門から聖氣とてけりうの者のあつこ
めきとてけりうの聖氣とてけりうの者のあつこ
るふく梅名念仏うごまきうつこころの世かれ
ふふいふんや念の四つ
てはあつこふいふんや念の四つ
若の目より聖氣とてけりうの聖氣とてけりうの

て引んやううのひま探定は入でうもなあるべし
 果唐は目とよさうもあひごさうかつらこれきき
 二西とひすべほごさうすおしら深施うういり
 ようさうひささうりほさう重ねはゆとりて一
 ふうりふあ方十万位なる極樂世界はせうかな
 せんさう年おえ癒がひまの切利文とら位ふ業の
 せんさうのころふさるゝ
 ちやん梵王文力深探定のあもあざとこさる
 こそれとばいさうたのーとさんあださるなりと
 果唐かつさぬさうはあはあてんさうなくさ
 さうさあぬさうさうはよとあの人さうさあも観
 ちやんねさうさうあまのさたあの人さうさあも
 あがき海とさうさうさうさうさうさうさう
 したうさうさうさうさうさうさうさうさう

いづれも一人あれ^{いづれ}あつたとたみのあよひはうとてさうこの
いすからひらきまうの^い徳と興とであつたよ我々た
今とを^{いふ}たそまつらあうとて移いりてひるがや

道は物開樂の事

○それまんけあやういらくといふを以て極楽世界よ
ひまれて蓮花のうへにめをむくるとされありと
ゆふ歡樂するなりと百々そとをいひてたとふく
らけとめく月のあそびとくふとあそびあはれ
とものゝ俄に王女入りあそびとあそびとあそ
むばあ麻子黄金なりととなりて自然なりと
あそびとあそびとこれ限りすいりたうたうた
あそびとあそびとあそびとあそびとあそびと
あそびとあそびとあそびとあそびとあそびと
あそびとあそびとあそびとあそびとあそびと

立

あまのついでにうきをて雲の夜より万をきしのゆねと
 ふいよとゆいそたつこころいよは観る勢いといと
 春うきやのまへはありあひ大無のまゝとあつて
 よなきさめこころたまふ初者道きるうりとりてみ
 降と地よなげくぬぬは致れしそそつりすめ
 うり二がうりふちこころて春うきとこ春のうきま
 いよとつて七変のこころはしよひとまつてそそ美法乃
 多宿とおうとそそつり一変の道とそそそ青笑
 のゆひのうきふつりこころあんとあめのこころ湯
 けりうり骨よしとそそめく結果は入てある
 めなりこころとそそつりひえじつと使使はあつて
 つよと一の又とそそあひとそそつりとそそはつて
 すとる観るのうきとそそそやうきとそそそ

青笑のうきとそそ

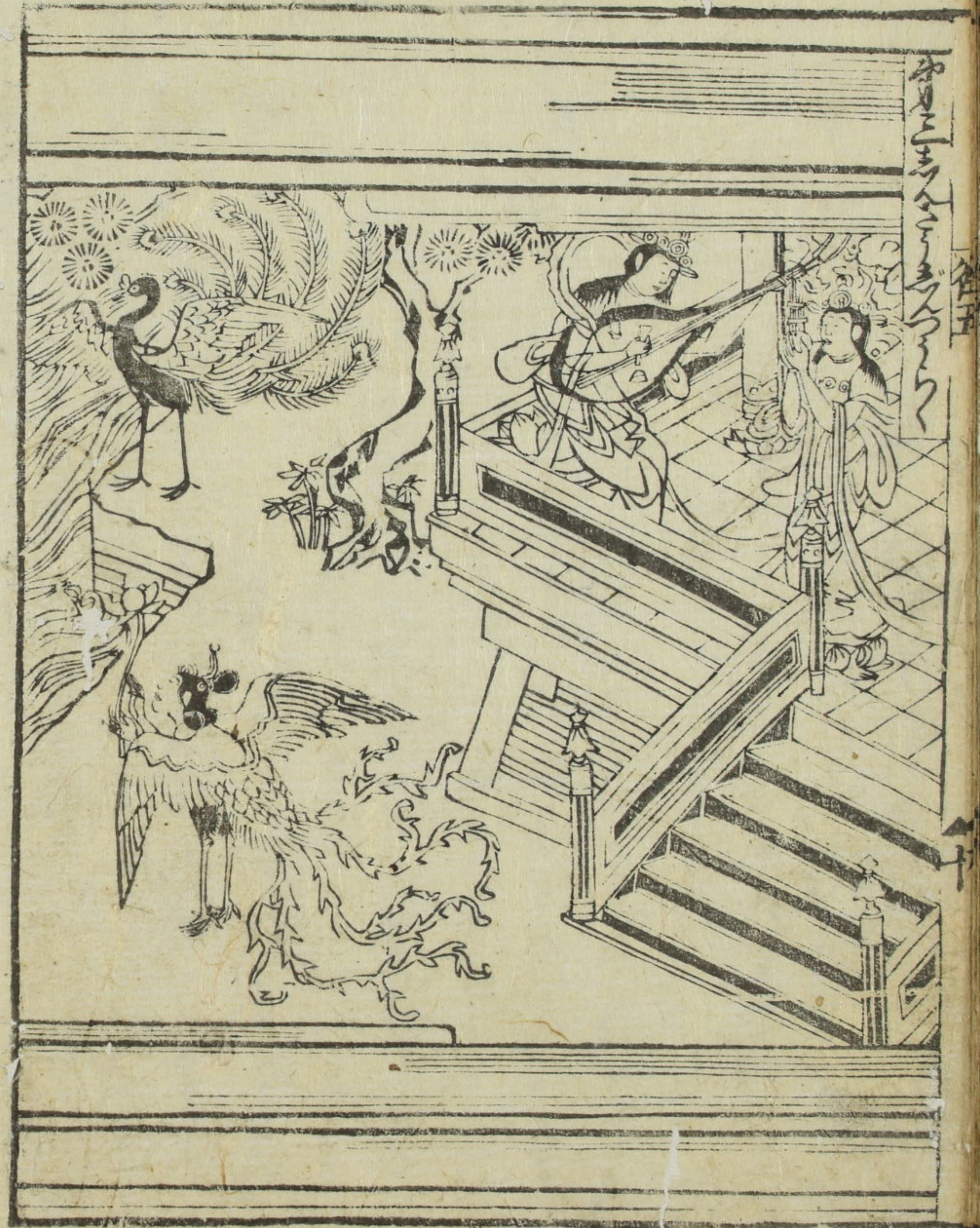


法華の偈よといふ人善根と人ともうさ
 ますかえら蓮花ひもん候ふ法華なるものいさむ
 ひろくといふかえら佛とんさそふふ

第三
分相种通樂の事

[illegible]

となり十方世界と云ふと云ふは、
 してすなわち、
 と云ふべし。ては、
 なる事と云ふ事、
 のうらゐあさううなり、
 知り、
 とも、
 聖なる子、
 なる事、
 よと、
 いづ、
 り、
 ち、



乃ほつたうつろのもうゝあをひてふらひつたを
をうゝうゝはうゝとてあて念佛志は念佛とて
けりほめ入根入が七葉花とのいふと金若雅の
いふとすあてた自施とてうゝとてあてあて
あてうゝれがうゝとてあてうゝとてあてうゝとて
あてうゝとてあてうゝとてあてうゝとてあて
たうゝとてあてうゝとてあてうゝとてあて
うゝとてあてうゝとてあてうゝとてあて
てあてうゝとてあてうゝとてあてうゝとて
他と海入と他とてうゝとてあてうゝとて
あてうゝとてあてうゝとてあてうゝとて
その中とあてうゝとてあてうゝとてあて
うゝとてあてうゝとてあてうゝとてあて

こゝとてあてうゝとてあてうゝとてあて
とてあてうゝとてあてうゝとてあて
あてうゝとてあてうゝとてあてうゝとて
とてあてうゝとてあてうゝとてあて
一と梅檀のうゝとてあてうゝとてあて
つとてあてうゝとてあてうゝとてあて
あてうゝとてあてうゝとてあてうゝとて
りりりりりりりりりりりりりりりりり
やとてあてうゝとてあてうゝとてあて
くとあてうゝとてあてうゝとてあて
あてうゝとてあてうゝとてあてうゝとて
あてうゝとてあてうゝとてあてうゝとて
あてうゝとてあてうゝとてあてうゝとて

[illegible]

ありのたのしみを生んじたまふも海へつたれうとに
 細く産をよそびとてりそのあふりつたれうとに
 とけとれとれとれとれとれとれとれとれとれとれとれ
 ぼつろつらりまどつらりまどつらりまどつらりまど
 りとれとれとれとれとれとれとれとれとれとれとれ
 くとれとれとれとれとれとれとれとれとれとれとれ
 まつろつろつろつろつろつろつろつろつろつろつろ
 つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
 めも金も株も金量乃やうとれとれとれとれとれとれ
 世もよみてりいもよみてりいもよみてりいもよみてりい
 ずもよみてりいもよみてりいもよみてりいもよみてりい
 乃もよみてりいもよみてりいもよみてりいもよみてりい
 うもよみてりいもよみてりいもよみてりいもよみてりい

世界は盡くばるゝのへる事佛のひと能く
 修むなりとらんところの能くはるゝ一食をんを
 へるゝは七宝の机自施とせん現とて是を
 は微少なり百味の飲食としてそのあらひは
 るゝも釈とびえるところのあらひはるゝす
 るゝも人見るゝにならぬあまのさすゝのふ
 るゝもとるゝもとるゝもとるゝもとるゝ
 同く食をんをるゝのあらひはるゝす
 てさうして佛のいふとては釈とびえ
 今よとるゝひてすゝとらんいふとては佛のあらひは
 にあふゝるゝで妙報自施とせんありてはらぬ
 のはらひあらひとては佛のあらひはるゝす
 てはらぬとては佛のあらひはるゝす

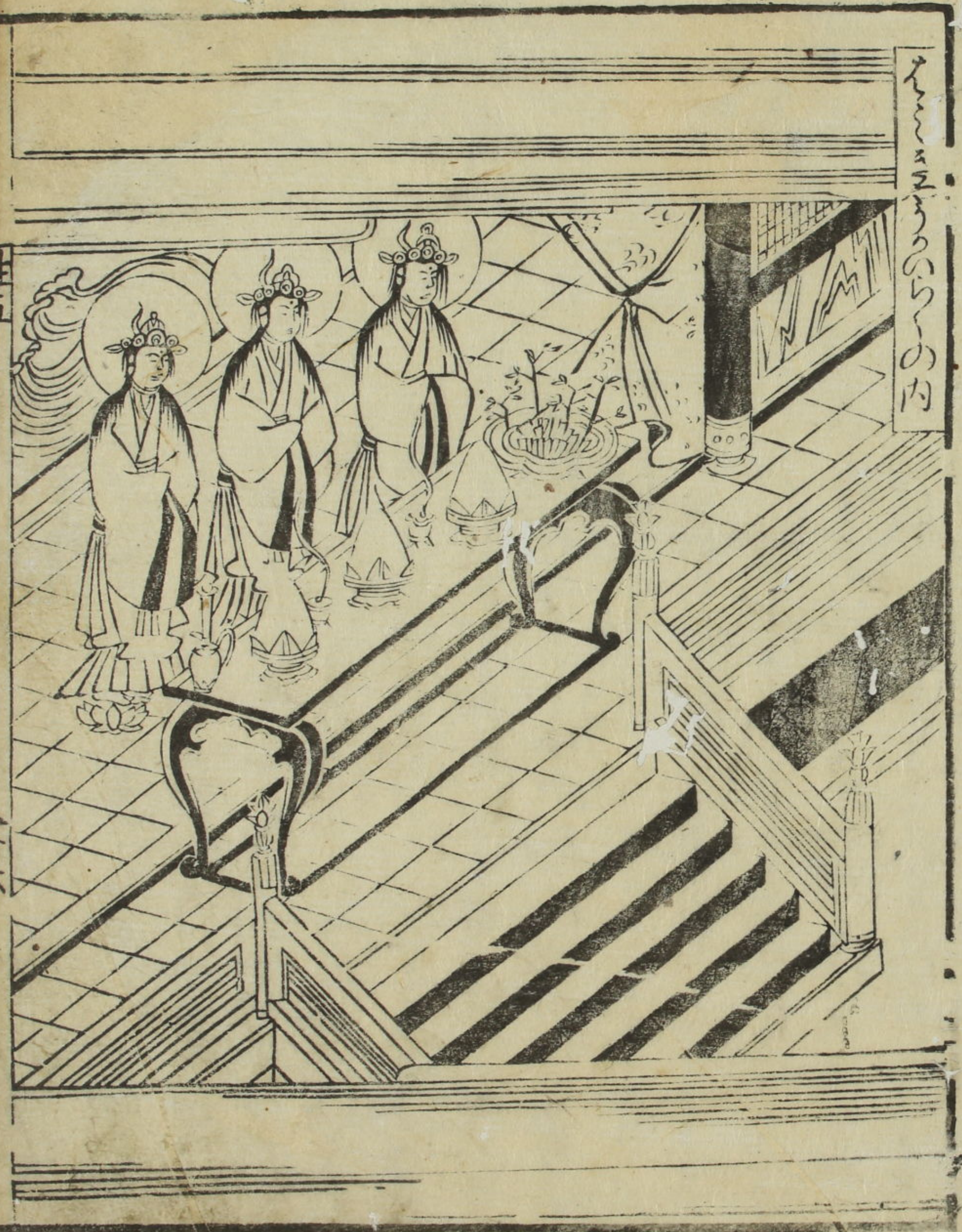
佛のあらひはるゝす



りて参るやうにんのもれをうらなのおいへんていへ
 ちまふよのびでうまうまのてんち中し梅のうまうめを
 かすゆきうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 ちまふよのびでうまうまのてんち中し梅のうまうめを
 めがれりちまのうまのうまのうまのうまのうまの
 と屋をふまひいこひのうまのうまのうまのうまの
 うまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 うまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 うまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの

第八 牧樂を退すの事

○それちまひいこひのうまのうまのうまのうまの
 うまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 うまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの
 うまのうまのうまのうまのうまのうまのうまの



えんゆ後とてふもひあひまされあへく契の地
 うちふもひ、是處のとは是處へくものや者命
 通とふもひとてたひはそれの事とあつてふ
 中とのまゝもてまねぶとおつて佛通とてあつ
 はその理論とてけく何くの戒とたれりつたの
 候へいふもひも根とてけくそれの布施とてけり
 いかもてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 浄土といふもひもそれの地とてあつてあつてあ
 へつかれりつてあつてあつてあつてあつてあ
 と通道の衆生の若くもあつてあつてあつてあ
 候へいふもひもそれの地とてあつてあつてあ
 てあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 候へいふもひもそれの地とてあつてあつてあ
 候へいふもひもそれの地とてあつてあつてあ

[illegible]

[illegible]

あゝの海に生まれの魚の身にて不意に岸に
 落ち城下の思儀をしも内分のとくなく若ハ微々と
 とげんにあゝとるねもろくなくありてひて死
 んだうんのうてあゝ人よとらぬはなりくし事をた
 のうとてたうとてあゝいじき死のうとてそれなり又
 死のうとて地中にけりて事とて死なされぬ
 自ら生滅して業のひひの生滅はあゝとて又
 極楽ありとてそれとてそれとてそれとてそれとて
 とて名もあゝいふらんや若乃一門も女子はあゝ
 とや死ねが所の偶はあゝ一人の妻はあゝとてあゝ
 とて死ねとてあゝとてあゝとてあゝとてあゝとて
 とてあゝとてあゝとてあゝとてあゝとてあゝとて
 ひりて死ね

